

a 学校教育目標	豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成 ～自立・尊重・向上～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校
----------	---	----------------------	--

評価計画				自己評価				改善方針			学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成 主体的な学びを促す授業づくり	基礎学力の定着	○定期試験ごとの「テスト直し」の実施しと、レポートやドキュメントによる可視化。 ○「本質的な問い」や「教科の特性を意識した振り返り活動」を取入れた単元構成・単元開発	①標準学力調査「活用問題」の正答率における校内平均と全国平均との比率 ②実力テスト等における校内平均と全国平均との比率 ③一人一授業提案	1 (100%)以上	① 1年 0.95 2年 0.89 3年 0.90 ② 3年実テ 0.87		90%	①B ②B	・標準学力調査の知識・技能を活用する「思考力・判断力・表現力等」の正答率が1以下(全学年) ・全国学力テスト・標準学力調査等の結果の分析と今後の取り組みを各教科で共有している。	・モジュール学習で全生徒が毎日ミライソード取り組む時間を確保することで、chromebookの活用と学力向上を目指す取組を昨年度に引き続き実施する。 ・研究授業を各教科で行い、全教職員での協議・共有(取組の可視化)を行う。 ・第GOノートを活用するとともに各教科で課題を与えていくことで、家庭学習の量(時間の増)・質(思考力・判断力・表現力等を使った活用問題)の充実を目指す。 ・全国学力テスト・標準学力調査等の分析結果を踏まえ、類似問題を試験で実施するなど継続的に取り組みを進めていく。				
	学力向上を意識した授業改善	○教科ごとの「PDCAサイクルシート」を活用した授業改善 ○家庭学習の充実による基礎学力の向上(各教科・各学年)	④生徒、教職員アンケートの「振り返り」に関する設問の肯定的回答率 ⑤毎日家庭学習を行う生徒の割合	80%	④生徒 ・授業85% ・テスト92.8% ④教職員 ・授業&テスト100% ⑤ ・生徒82%		④100% ⑤100%	④A ⑤A	・教職員は全学年、全教科で定期試験後のテスト直し(誤答処理)レポートなどで振り返り活動を仕組んでいる。実施率100% ・生徒アンケートより、定期試験後にテスト直し(誤答処理)レポートなど振り返りを行っている。肯定的評価 92.8% ・毎日家庭学習に取り組んでいる生徒は82%であるが、保護者の肯定的評価は70.6%である。 ・毎日課題を設定して自主学習に取り組んでいる。肯定的評価 62.4% ・家庭学習時間30分以上(塾・宿題等を含まない)58.3% ・家庭学習時間30分以上(塾・宿題等を含む)84.2%	・授業の振り返りと定期テストの振り返りがリンクしていくような仕組み作りを行う。 ・1学期のテスト直し(誤答処理)レポートの実施方法や評価基準について交流研修を行ったので、他教科の実践の良いところを2学期のレポートに反映させる。 ・生徒の家庭学習への取り組みを可視化し、保護者に通信等で還元する。 ・30分未満の生徒への取組強化を行う。(細やかな家庭との連携・学力向上部との連携)				
たくましい心身の育成 (自ら考えより良く判断し行動する力)	生徒会活動の充実	○生徒の主体的な取組や頑張りへの肯定的評価 ○集会活動の定例開催と内容の充実 ○地域への貢献活動の促進	⑥「自分には良いところがあります」に対する肯定的な回答率 ⑦生徒アンケートにおける「主体的な地域活動への参加」についての肯定的回答率	80%	⑥生徒 肯定的評価78.2% ⑦生徒 肯定的評価57.9%		⑥98% ⑦72%	⑥A ⑦C	⑥ ・毎週木曜日、生徒集会を各学年で行っている。集会では、生徒が意見を述べる、司会を担当するなど活躍する場面を意図的に作ろうとしている。 ・第GOノートの内容紹介など生徒の努力を紹介する取り組みにも力を入れている。 ⑦ ・新型コロナウイルスによる制限も減り、今後は学校全体で地域貢献の取り組みを検討していく。	⑥ ・生徒の努力の成果を掲示物や通信で紹介し、主体的に取り組む意欲を高めていく。 ・学校行事やクラス行事など役割を与え、活躍する場面を意図的に作る。 ⑦ ・地域行事の情報を積極的に発信し、活動へ参加しやすい環境を作っていく。				
	生徒指導・教育相談活動の充実	○個別の指導計画の作成と組織的な取組推進 ○生徒アンケート・QU等による実態把握と組織での早期対応 ○長期欠席・不登校生徒数の増加への対応、取組強化	⑧生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」についての肯定的評価	90%	⑧生徒 肯定的評価88.7%		⑧98%	⑧A	・運動会などの学校行事、部活動や生徒会活動に取り組む中で、自己肯定感を高めることができた。 ・テスト週間に担任による教育相談を実施し、生徒理解を深めよう取り組んでいる。QUの結果を踏まえ、スクールカウンセラーによる担任面談を行い、きめ細やかな生徒支援について検討した。 ・スクールカウンセラーや校内ふれあい教室と連携し、長期欠席・不登校生徒への対応を強化している。	・授業改善や学校行事の充実、班活動やペア活動など共感的人間関係づくりを強化し、他者を通じた自己肯定感を高める取り組みを実践していく。 ・スクールカウンセラーや校内ふれあい教室、三原市の関係機関と連携し、教職員が生徒理解を深められるよう継続して取り組んでいく。				
働き方改革の推進	効率的で組織的な校務運営・業務改善	○水曜日のかたまり時間を使った学年会・部会等の定例化・活性化、進行管理の徹底と改善 ○ボトムアップによる業務改善の推進、行事等の見直し ○教職員のやりがい	⑨見直し、スリム化、業務改善が実行できた事項、学期に2つ以上 ⑩「私はこの学校に満足している」と回答する教職員の割合	80%	⑨事項の数 ⑩教職員アンケート		⑨2つ ⑩肯定的評価88.9%	⑨A ⑩B	・放課後の研修を、水曜日のかたまり時間に集中したり、授業時間の中に組み込むなど、生徒と向き合う時間を確保できた。 ・欠席者へのこまめな連絡や保護者への周知漏れを防ぐため、すぐる機能を活用する教職員が増えた。	・引き続き、会議の効率化や合理的な報告・連絡・相談を工夫して、生徒と向き合う時間や授業改善の時間を生み出していく。 ・保護者連絡はすぐると電話連絡をバランスよく行い、効果的に活用する。				
	長時間勤務の縮減	○上限の目安時間を超えない時間管理の徹底(月45h) ○働く者の意識醸成(ワークライフバランス) ○部活動時間改革の継続、定時退校日の厳守	⑪時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合	90%	⑪時間外勤務6か月の平均		65%	⑪C	・時間外勤務45時間以上超えた教職員割合 4月75%(18人)、5月38%(9人)、6月50%(12人)、7月25%(6人)、8月0%、9月25%(6人) ・時間外勤務の割合が増えた。 ・行事や進路事務などがあるが、メリハリをつけて、週1回の定時退校を守り切るなど、意識を高める必要がある。	・仕事の優先順位などをつけながら、時間外勤務が当たり前ではない風土を醸成していく。 ・効率的な報告・連絡・相談を構築していく。 ・それぞれのライフワークバランスに沿った年次有給休暇の取得を積極的に推進をする。(例えば平日の時間単位取得や休業中の連続取得など)				

【j: 自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) C: 60≦(もう少し) < 80  
B: 80≦(ほぼ達成) < 100 D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】  
イ: 自己評価は適正である。  
ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。